

元アムステルダム市長 ヨプ・コーヘン氏会見

「理解には対話が必要」



本紙記者の質問に答えるヨプ・コーヘン氏（左）（8 月 27 日、アムステルダム市内で）＝木村誠撮影

【1 面参照】世界初の同性結婚法成立に携わった、元アムステルダム市長のヨプ・コーヘン氏との一問一答は以下の通り。

（本紙特派員団）

——同性結婚法の制定に関わった経緯は？

1998 年に法務副大臣に就任し法案の作成に関与した。2001 年にアムステルダム市長に就任し、同

Think LGBT+.



年 4 月 1 日の同法施行日に世界初の同性カップル 4 組の結婚式を取り仕切った。——その時どう感じましたか。

市長として最も大きい仕事の一つだった。副大臣として法案提出時から携わってきたため、感慨もひとしおだった。結婚式の参加者は皆幸せそうで、これがあるべき姿だと感じた。

——同法制定後オランダ、特にアムステルダムの状況はどのように変化しましたか。

同法の制定以前から、アムステルダムは同性愛者に寛容な世界有数の都市だった。同法の成立に尽力しよつと思っただけは何ですか。

オランダでは、異性愛者や同性愛者にかかわらず、事実婚を選ぶカップルが少なくないため、当初は同性

たが、施行後ますます同性愛者や同性結婚が当たり前のことになった。近年は、同性愛への理解があまり進んでいなかったり、宗教で（同性愛が）禁じられている国からの移民が増えているが、（平等や社会の多様性について）対話を通じて理解を深めることが重要だ。無論、時間はかかる。60 年前、ある級友が同性愛者だと知っていたが、級友は当時それを公にできなかった。人々には、各人の思いに従い行動する機会を与えるべきだ。

——同法の成立に尽力しよつと思っただけは何ですか。

オランダでは、異性愛者や同性愛者にかかわらず、事実婚を選ぶカップルが少なくないため、当初は同性



発表する参加者（7 月 12 日、ローズホテル横浜で）＝福原直樹撮影

横浜で国際会議「CeDEM」開催

世論とネットの関係を議論

政治をめぐる世論の分断とネットの影響を考えた「CeDEM（Eーデモ 2018）」が 7 月 12、13 日、ローズホテル横浜（横浜市中区）で開かれた。海後宗男・人文社会国際比較研究機構長（人社会・教授）の主催で 13 の国と地域から政府関係者や研究者ら約 50 人が参加。「大衆迎合主義と分断の時代におけるデジタル・イノベーション」をテーマに議論した。同会議は 12 年から 2 年おきに開催され、日本での開催は初めて。

初日の基調講演では米スタンフォード大学のシャント・アイエンガー教授（政治学）が、トランプ大統領（共和党）とオバマ前大統

領（民主党）の就任式会場の写真を共和・民主両党の支持者に見せ、「どちらがあなたの支持大統領のものか」と聞いた研究を紹介。この結果、共和党支持者には出席人数の多いオバマ氏の会場写真を選ぶ傾向があったという。これをもとに同教授は、米で両党支持者の分断が急激に進む背景には、物事の認識のゆがみがあると指摘した。

午後には東北大学の永吉希久子准教授（人間科学）と瀧川裕貴助教（社会学）が、閉ざされた空間で同様の思想の持ち主がコミュニケーションを繰り返すことで、その思想が強化・増幅される「エコーチェンバー現象」について報告。日本のツイッターの利用状況に焦点を当てた研究では、

| 総合選抜 募集人数と 2 次試験の科目・配点 | | | | |
|------------------------|---|----------------------|------------------------------|-------|
| | 文系 | 理系Ⅰ | 理系Ⅱ | 理系Ⅲ |
| 募集人数 | 128 人 | 154 人 | 41 人 | 90 人 |
| 1 科目め | 外国語（英・独・仏・中）から 1 500 点 | | | |
| 2 科目め | 世界史 B 日本史 B 地理 B 倫理 数学 II B } から 1 500 点 | 数学 II III B 500 点 | | |
| 3 科目め | 国語 500 点 | 物理Ⅰ 500 点 | 化学・物理・生物・地学 から 2 500 点 | 500 点 |
| 調査書 | 50 点 | | | |
| 大学入学共通テスト | 900 点 | | | |
| 合計 | 2450 点 | | | |

筑波大学入試課の資料を元に作成

総合選抜は体育専門学群を除く 24 学類・専門学群が実施し、受験科目や配点が異なる「文系Ⅰ（理系Ⅰ）」「理系Ⅱ」「理系Ⅲ」で行う。総合選抜と学類・専門学群選抜は同じ前期日程で実施することから、同様の入試問題を出題する。

総合選抜で入学した学生は、1 年次の成績と希望を考慮し 1 年次からの学類を決める方針だ。学生は文理

の選抜区分にかかわらず、24 学類・専門学群への進級が可能。だがこの際、「物理Ⅰ」「理系Ⅰ」の学生を多く受け入れるというように、入試時の選抜区分によって各学類の受け入れ人数に優先枠を設ける学類も多い。

総合選抜は受験生の進路の幅を広げるもの



再鑑定した骨を持つ木村研究員（7 月 26 日、本部棟で）＝秋田耕平撮影

筑波大学の古生物標本収蔵庫で 60 年以上保管されていた骨の化石が、1000 万年以上に絶滅

——と考えている。1 年間かけてさまざまな学問分野を知り、自分に合った分野に進めるようになることを期待している」と語った。

このほか、推薦入試では心理学類が大学入学共通テストを課す方式に変更する。また、後期日程を教育、心理、障害科、物理、化学の 5 学類で新たに実施する一方、比較文化、情報科、情報メディア創成の 3 学類ではそれを廃止する方針だ。

90 人が参加した。

調査に加わった筑波大の上松佐知子准教授（生環系）は「（再鑑定の結果に）子どものように喜んだ。普段研究をしている建物内から見つかったので非常に驚いている。古生物学的な側面から研究を進めている」と語った。化石は今後つくば市内で展示される予定。

（木村誠、12 面に関連写真）

入試改革の概要固まる

【1 面参照】筑波大学は 7 月、平成 33 年度から実施する「総合選抜」などの入試改革の概要を公表した。総合選抜は一般入試の前期日程で実施し、入学定員 2065 人のうち 20% の 413 人を募集。新たに高等学校の調査書を 50 点満点で点数化し、そこで主体性なども評価する方針だ。一方、現在、学類別で行われている前期日程の入試も「学類・専門学群選抜」と名称を変えて実施。だが日本語・日本文化と知識情報・図書館の 2 学類は同選抜を行わず、前期日程では総合選抜だけを実施する。

（秋田耕平）

収蔵庫から大発見
パレオパロディシア 保存状態は良好

筑波大学の古生物標本収蔵庫で 60 年以上保管されていた骨の化石が、1000 万年以上に絶滅

——と考えている。1 年間かけてさまざまな学問分野を知り、自分に合った分野に進めるようになることを期待している」と語った。

このほか、推薦入試では心理学類が大学入学共通テストを課す方式に変更する。また、後期日程を教育、心理、障害科、物理、化学の 5 学類で新たに実施する一方、比較文化、情報科、情報メディア創成の 3 学類ではそれを廃止する方針だ。

90 人が参加した。

調査に加わった筑波大の上松佐知子准教授（生環系）は「（再鑑定の結果に）子どものように喜んだ。普段研究をしている建物内から見つかったので非常に驚いている。古生物学的な側面から研究を進めている」と語った。化石は今後つくば市内で展示される予定。

（木村誠、12 面に関連写真）

茗溪会に新組織

産業界との連携

産業界で働く卒業生同士が、つながりをつなぐため、筑波大学や前身の東京教育大学の同窓会組織、茗溪会（東京都文京区）が「茗溪・筑波産業界倶楽部」を新設した。7 月 22 日には発足式が茗溪会館（同区）で開催され、筑波大の卒業生ら約

県人会で「プチ帰省」



雙峰祭のステージで「エイサー」を披露する会員たち＝知念由子さん提供

1993年に、同県出身の受験生支援のために発足。会員は約50人で、月に数回交流会などを行う。

現在の主な活動は、雙峰祭での「エイサー」の披露だ。旧盆の時期に踊られる沖縄県の伝統芸能。総勢30人ほどで、太鼓と沖縄の伝統的な弦楽器の三線に合わせ、「女手踊り」を行う。会員は、中学や高校でエイサーを踊ったことがある人がほとんどで、中には三線を習っている会員も。だがエイサーは、団体や地域ごとに振り付けや楽曲が異なる。このため、同会で伝統的に踊られる振り付けを覚えることを目的に、本番の半年前から練習を開始。直前の1カ月間はほぼ毎日集まりの練習する。

また、茨城県に在住する沖縄県出身者で構成される茨城県沖縄県人会とも交流があり、太鼓や衣装は同会から借りるという。

同県出身の筑波大の受験生の支援では、空港に到着

した受験生をボランティアの会員が迎え、車で宿泊ホテルまで送ったり、受験会場の下見にも同行する。また、面接の助言も行う。交通費などの費用は会費で賄い、受験生は支払う必要はない。

同会に所属していた知念由子さん(平成29年度比較文化学類卒)は同会の特徴について「会員の仲が良く、家族のような安心感がある」と話す。会としての活動以外にも、仲良くなった会員との食事などの機会も多い。知念さんは「関東の寒さや雪に驚いた話などを、方言で共有できるのも県人会の魅力」と話していた。

沖縄

雙峰祭で「エイサー」披露

韓国留学生会

1999年に発足し、会員は38名。活動は月に1、2回で、新入生歓迎会やバーベキューなどの交流会のほか、有志でバスケットボールやバドミントンなども楽しむ。

また、日本で就職した韓国留学生のOBや、日本の大学院に進学したOBを招き、就職活動や大学院入試の経験談を話してもらうセミナーも開催。会長のハン・ジンウさん(応理3年)は「留学生と日本人学生の就職は違う部分が多い。就職した先輩が後輩に話をしたいと名乗り出てくれたところもある」と話す。

就活セミナーも開催

昨年度の雙峰祭では、韓国のおかし「ホットク」の調理・販売を行った。シナモン入りの黒砂糖をパン生地で包んで焼いた、日本のおやきのようなもの。同団体によると「調理が忙しすぎて会員が雙峰祭を回れない」ほどの人気だったという。

ハンさんは、留学生会内での会話には特徴があるとも語る。「ギリギリ」なく、韓国語への翻訳が難しい日本語はそのまま使うなど、会話には日本語が混じる。ハンさんは例えば、「鍋取って」を『鍋』は日本語、『取って』は韓国語といったように、両者を混ぜて話すこともあるという。

同会によると、秋学期に

三重

昨年、活動を始めたばかり。会員は約40人で、各学群・学類の新入生歓迎会やSNSを通じて集まった。創立者の伊達直也さん(社学4年)は、宿舎祭や雙峰祭での他の県人会の活動を見て、自分も同郷人と関わりを持ちたいと感じ、立ち上げを決意。「県民が一堂に会することで、帰省したような気分を作り出したかった」と語った。



昨年の雙峰祭で伊勢うどんを販売した三重県人会＝三重県人会提供

申請が通れば、団体ごとに会員一人あたり1000円(限度額3万円)の助成が受けられる。

同会の担当者は「新しい制度だが、積極的に活用してほしい。また各都道府県にある茗溪会の組織とも連携し、就職などでその人脈を生かしてほしい」と話している。

茗溪会の助成金

昨年度の雙峰祭では初めての親睦会を開催するなど、昨年度よりも活動の幅を広げている。一方で「三濃い汁を絡めて食べるが、重県出身者全員に勧誘が行き渡っていない」(近藤さん)という課題も。現在、古くからあるほかの県人会に助言をもらうなど、効率よく活動方法を探求してはしかなかったと語る。

4月には、新会員を交えての親睦会を開催するなど、昨年度よりも活動の幅を広げている。一方で「三濃い汁を絡めて食べるが、重県出身者全員に勧誘が行き渡っていない」(近藤さん)という課題も。現在、古くからあるほかの県人会に助言をもらうなど、効率よく活動方法を探求してはしかなかったと語る。

広島

1985年発足の、筑波大で最も歴史のある県人会の一つ。「会員相互の連絡を図り、広島文化を共有し、世間に広める」目的で設立され、現在約80人が所属する。

最も力を入れている活動は、宿舎祭や雙峰祭での「広島風お好み焼き」の調理・販売。定評のあるおいしさで、毎年、販売前から長蛇の列ができ、800食を売り上げる。

こだわりの、ソースやおタマゴソース(広島市西



昨年の雙峰祭で広島風お好み焼きを作る会員ら＝広島県人会提供

年に数回、広島関連のスポーツ観戦にも力を入れる。プロ野球の広島東洋カープとサッカーJリーグのサンフレッチェ広島の試合の応援には、毎回20人以上が参加。関東での試合だけでなく、地元広島での試合まで観戦に行くこともあるという。

代表の若島朋幸さん(生物2年)は「学類や学年の所属を超えて人間関係が広がるのが県人会の魅力」と話した。

「地元愛が大きくなった」

毎年買いに来る常連がいるほか、山梨県出身の人が来店、それをきっかけに団体に参加するケースもある。会員の小宮山瑛生さん(社学4年)は「実家ではうどんが食べたいが、実際に作ったのは県人会が初めて。おいしいほうとうで山梨の魅力は伝わったと思う」と語る。

会員同士の交流を図るため、歓迎会や交流会も行う。話題は、山梨だけで流れるCMや出身高校などに関する会話がなかったが、かえって

山梨

現在、会員は45人。主な活動は、雙峰祭での山梨県民のソウルフード「ほうとう」の調理・販売だ。ほうとうは、太くて長い麺をかぼちゃなどの野菜と共に、みそ仕立ての汁で煮込んだもの。山梨県の製麺所から麺を仕入れるなどのこだわりで、毎年ほぼ完売の盛況ぶりだ。



山梨の名物であるほうとう＝山梨県人会提供

福井



平砂浴場で販売されていた「ローヤルさわやか」＝福井県人会提供

また、福井県庁と協力して福井県内の企業の就職の情報をまとめ、提供する構想もあるという。会員の一人は「地元で就職したいが、つばにいて地元での就職情報を得にくい。実現することでも助かる」と話す。

和田さんは「大学生活を楽しむ場の一つとして県人会は非常に魅力的だと思つた。今後いろいろな活動を考えたい」と語った。

て、いい意味でゆるくメンバーをつなげ続けている。今後とも今の形を崩さず、長く続けてほしい」と話している。

止した。和田桃乃さん(社工専攻2年)は、福井県民にとどまらず、「福井」をキーワードに交流の場をつくりたいという思いから活動の再興に取り組む。和田さんは「福井の文化を伝えられたらうれしい」と話す。

今年5月には福井県内で製造されている当地のメロンソーダ「ローヤルさわやか」を平砂浴場で販売した。和田さんは「福井の文化を伝えられたらうれしい」と話す。

さんは「今年は10人程度で活動している。今までの県人会活動の枠を超えた在り方を考え続けていきたい」と意気込む。

記者の声



竹添そら

筑波大学知識情報・図書館学類は11月の推薦入試からゲーム形式の書評会「ビブリオバトル」を使う集団面接を導入する。だが、どうしても入試へのビブリオバトル導入に違和感を覚えている。私自身、高校から同競技を始めたが、ビブリオバトルは「好きな本をより多くの人に読んでほしい」という「本への愛」や「思い」から行うもので「合格のため」のものではないと思うからだ。大学の発表によると、入試時の評価基準は、本来の競技のそれとは異なっているが、一体どうしたいのか。

歴代の全国大会優勝者が口々に「この本の良さを知ってもらえうれしい」と語るのもこのためだ。だが、入試では「合格のため」に本を選び、「合格のため」に練習をする。そこに競技の根幹である「本への思い」が入り込んでいない。

本への愛と情熱で聴衆を巻き込み、一票を集める型破りな発表が入試の場で姿を消すのは間違いないと思う。そこでは受験対策のマニュアルに基づく無難な「合格確実」なものが軒を連ねるのではない。

入試 違和感 違和 入試への導入 合格目的の競技に意義あるか

か……。男性の発表は本のあらすじが中心だった。だが男性は小さな声で、そして時折つかえながらも、真剣だった。

「私は図書館の片隅の化石」彼は、自らをそう例えた。全く舞台慣れしていない。だが彼を舞台へと駆り立てた「本への思い」の強さに深く感動した。これら大会の参加者は「自分の好きな本への思いから赴く。」

込む余地はあるのだろうか。入試案内に「チャンプ本（第1位）に選ばれたこと入試の可否は無関係」とある通り、入試の評価基準は、本来の競技とは異なる。入試では勝敗に関係なく「より説得力のある説明の者」、質疑応答では「より質問力の高い者、的確に回答している者」の配点が高くなるという。ここでは、先述の男性のよう

ビブリオバトル導入を決めた同種類の宇陀則彦准教授（図情メ系）は「競技は、限られた時間で、その人の説明能力やコミュニケーション能力を見られる。入試には最適だ」と語る。

先日、同種類の大学説明会に学生スタッフとして参加した。推薦入試の説明後、質問が殺到した。「どんな対策で合格できるのか」「説明を聞いて、ますます分からなくなった」などの高校生の声も耳にした。

高校時代から競技を始めた私は、幸い高2、高3と全国大会に参加し、自分に与えた影響や読んでほしい点など、本の素晴らしい点を訴えた。今年も大学生の大会に出場する予定だ。

推薦入試受験者の中には、入試がビブリオバトルとの初めての出会いになる人も多いだろう。将来、彼らが競技と本を愛し続けてくれることを願いたい。【知識情報・図書館学類2年】

筑波時評

7月15日、フランスの5大会ぶり2度目の優勝でワールドカップ（W杯）ロシア大会の幕が閉じた。日本代表は下馬評の低さを覆し、初の8強進出まであと一歩という戦いを見せた。ここではプレー内容ではなく、W杯を機に見えてきた選手の育成、スポーツと科学技術という2点について考えたい。

今大会、日本代表メンバー全23人中、クラブ出身11人、高校クラブ出身者が高校出身者の数

ロシア W杯 今大会から判定に新技術 サッカー特有の魅力失うな

その数が逆転するという現象が起きているのは、その後の成長の違いが影響しているといえる。海外ではサッカーはクラブで育つもので、毎日が評価の場。良ければ上位のクラブやカテゴリーで競技でき、悪ければそれが叶わないことが日常だ。つまり幼少の頃から苛烈な競争、圧力の中で競技しているといえる。高校出身の選手は幼いころか



小井土 正亮 助教（コーチング学）

体育系・助教。筑波大学蹴球部監督。2003年筑波大学人間総合科学研究所体育学専攻修了。Jリーグガンバ大阪など3クラブのコーチを経て、14年より現職。

で高い評価を得てきた選手ではないかもいれない。だが、変えられない環境の中で強いハングリー精神を養ってきたことが想像される。自分の強さや弱さを認識し、自らを研ぎ澄ましてきた選手がギリギリの局面で高いパフォーマンスが発揮できるのか否かを判定するシステムは導入されたことはあった。1つのゴール、勝敗が各方面に大きな影響を与える時代になったことを考慮すると、人間の判定のみに頼らず、科学技術の導入も致しかたないとも考えられる。

今回のVARはあくまで主審の判定の補助だった。実際4500シーンで「チェック」があったが、主審が確認したのは20シーン程度だ。だが、今後人工知能の発達に伴い、スポーツを機械が裁くという無機質な在り方になるという危惧もある。

サッカーの魅力の一つに途切れない「流れ」プレーの連続性がある。一瞬でも見逃せば最高のシーンに出会えないかもしれない、といった緊張感。ゴールの瞬間の爆発的な高揚感。他の種目にはない感覚である。そういったサッカー特有な魅力を失わない方向で科学技術の導入を進んでいくことを願いたい。

反射鏡

駅前再開発、何を望む？

昨年2月の西武筑波店、今年1月のイオンつくば駅前店の閉店や6月のつくばセンタービル（つくば市吾妻）1階の飲食店街の完全撤退など、つくば駅周辺の活気は薄れつつある。本紙前号での取材で五十嵐立青つくば市長（平成13年度国際総合学類卒）は「駅周辺の再生は市にも責任がある」と発言。西武やイオンが入居していた商業ビル・CREO（同市吾妻）に公共施設を入居させる考えを明らかにした。筑波大学生は同駅周辺の未来像をどう思っているのか。中央図書館前や春日エリアなどで聞いた。（西村大祐 人文文学類1年、竹添そら 知識情報・図書館学類2年）

【知識図書2年・女性】 して貸し出せば学生に需要があると思う。

【地球2年・女性】 映画館やボウリング場など公務員宿舎を有効活用すべきだ。立地が良いので修繕 どの娯楽施設が欲しい。つくばには娯楽施設が少なく、また自家用車を持っていないため駅の近くにあると便利だと思う。

【又創2年・男性】 海外の食材やフランド野菜を取り扱う高級スーパーではなく、廉価なスーパーが欲しい。

【比文3年・女性】 若者向けのファッションを扱った商業施設を望む。また、現在の市立図書館に思い入れがあるので、駅前への移転には反対だ。

【知識図書4年・女性】 イオンがなくなってしまう、食料品の購入場所に困っていたので、スーパーが欲しい。深夜営業も行ってほしい。

【又創1年・男性】 利用者側としては今の図書館で満足しているので、駅前移転の必要はないと思う。

【芸専1年・女性】 塾や予備校を望む。交通の便が良い駅前にあれば、通う生徒だけでなく、講師やスタッフとして勤務する学生にとっても便利だと思う。

【地球1年・女性】 感じる。大学の丸善以外に本を購入できる場所が近くにないので、大型書店ができるとうれしい。

【日大4年・男性】 入学の際にイオンにお世話になったので、手頃な値段で家具や日用品を買うことができれば嬉しい。

【知識図書3年・男性】 今はコンビニエンスストアのATMを利用しているが手数料が気になるので、銀行各社のATMがほしい。電車やバスで遠方に出かけるついでに利用したい。

【体専4年・男性】 つくば市が検討しているように市立図書館や子育て施設などの公共施設を駅前に移転させればよいと思う。公共施設の入居でもいいので、駅前のにぎわいを創出することが大切だと思う。

あなたの学類自慢

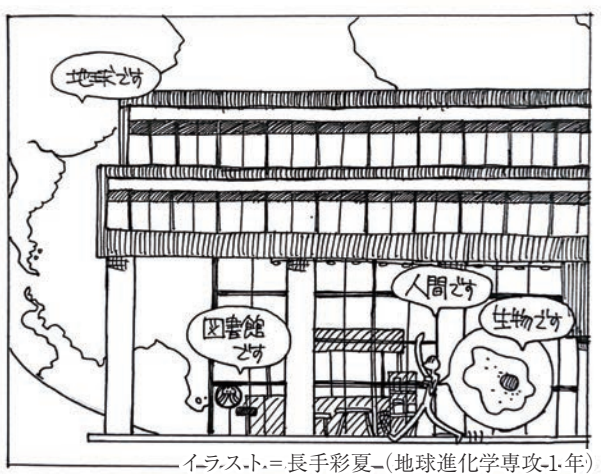
筑波大学には、25の学類・専門学群が存在する。学生は自身の所属する学類・専門学群にどのような魅力を感じているのだろうか。中央図書館前や春日エリアなどで聞いた。（小池凛太郎 比較文化学類1年、飯田健介 II 社会学類2年）

【人文1年・男性】 学生が個性が強く、さまざまな人がいる。1年次から専門的な学問が学べるので、深い教養が得られる。

【比文1年・女性】 アニメや漫画など、文化に関わることならなんでも研究できる。自分の興味関心を学問につなげられる。

【学類2年・男性】 学類長の親しみやすさも筑波大で一番だと思う。

【国総2年・男性】 帰国子女や留学生など、多様な経験を持つ人が多く、通常聞かないような



イラスト=長手彩夏（地球進化学専攻1年）

【知識図書1年・男性】 春日エリアの施設が利用しやすい。図書館の蔵書は専門書から児童書まで多岐に渡り、さまざまな本を読むことができる。

【体専2年・男性】 全国最高峰のアスリートが活躍している。授業もさまざまな分野からなり、教育哲学や教育社会学など、多角的に教育学を学ぶ環境がある。

【医療科1年・男性】 生物系とは異なり、医学的な観点から人体について研究ができるのは、ほかの大学にはない。筑波大ならではの学類だと思う。

【工نس2年・男性】 他大学と違い入学した時点では専攻分野が決まっていなくて、工学は人工知能（AI）、宇宙系、構造系など多岐にわたるので2年まで選択の時間があるのは非常に魅力的だ。

【数学3年・男性】 高校までとは違い、「数学とは何かを研究できる。それに問題の解決への道筋を多面的に効率よく考えられるようになる。」

少年時代の思い出を描く

「おとしもの」 絵本を人形劇に

筑波大学人形劇団 N.E.U.の新人公演「おとしもの」が8月30、31日につくば市民ギャラリー(つくば市吾妻)で開かれ、訪れた約20人の観客は精緻な人形や物語の世界に引き込まれた。

「おとしもの」はオリジナル人形作家のシヨーン・タン作『ロスト・シング』を同劇団が舞台化。主人公が少年時代に出会った赤い奇妙な生物との思い出を回想する話で、大人に見向きもされず迷子だったその生物の「いるべき場所」を主人公と一緒に探す様子が描かれる。原作は2010年に英国とオーストラリアが共同でアニメ映画化し、11年にアカデミー賞を受賞した。

上演では、舞台と音楽の一体感を持たせるために、同劇団が新たに挿入曲の作曲を企画した。原作のファンで、演出を担当した稲田和巳さん(又創2年)は「規則から外れたものを許容する大切さ」を主題に舞台化した。これまでに見たことがない生物を(人形で)製作するのが難しかったと話した。



奇妙な生物(左)と主人公を動かす団員(8月30日、つくば市民ギャラリーで)

同劇団は筑波大の前身・東京教育大学時代から続いており、現在は大学院生を含めた6人で活動。作品は8月に長野県飯田市で開かれた「いい大人形劇フェスタ」や茨城県守谷市の小学校での公演など、計6回上演されている。

(西村大祐 写真も)

芸術の魅力を紹介

夏のキッズアート体験

「夏のキッズアート体験」(主催・関彰商事)が7月29日にスタジオS(つくば市二の宮)で行われた。会場には筑波大学芸術系の学生や、関彰商事育英会つづくば市二の宮などが計9ブースを出展。色画紙を使って本を作ったり、シャボン玉を使って絵を描くなどの「アート体験」を楽しんだ。

この中で、筑波大の芸



スタッフの学生とともに色画紙を使って工作する子どもたち(7月29日、スタジオSにて)

術専門学群の学生たちは「メルトビーズで工作しよう!」を出展。メルトビーズは熱で溶け、冷えると固まる性質を持ち、子どもたちはビーズでキーホルダーなどを作っていた。

主催した関彰商事の葉章二総務部長は「今後も筑波大と連携し、地域貢献の一環として子どもたちにアートの魅力を紹介したい」と話した。

同社と筑波大芸術系組織は2016年から、芸術連携支援「スタジオS with T」を行っており、同イベントもその一環。5回目の開催となる今回は当初、28、29両日を予定していたが、台風12号の影響で28日は中止された。(後基志II社会学類1年、写真も)

体験型アートを楽しむ

つくばメディアアートフェス

つくば市主催の「つくばメディアアートフェスティバル2018」が7月28日から8月5日まで茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)とつくば駅構内の自由通路で開かれ、約3500人が来場した。

「メディアアート」は科学技術を利用した芸術作品。今回は「見て、体験して学べる 科学×アート」をテーマに、「筑波大学工学芸術連携リサーチユニット」など17組が出展した。作品は来場者の参加・体験型が多かったが、中でも注目を集めたのは勝部里菜さん(感性2年)、内山俊朗准教授(芸術系)、望月愛海さん(平成29年度芸術専門学群卒)の「nenurium」。来場者がカーテンに囲われたベッドに寝

「メディアアート」は科学技術を利用した芸術作品。今回は「見て、体験して学べる 科学×アート」をテーマに、「筑波大学工学芸術連携リサーチユニット」など17組が出展した。作品は来場者の参加・体験型が多かったが、中でも注目を集めたのは勝部里菜さん(感性2年)、内山俊朗准教授(芸術系)、望月愛海さん(平成29年度芸術専門学群卒)の「nenurium」。来場者がカーテンに囲われたベッドに寝

「自然の調和」という美しさ

縦70センチ、横35センチの大作だ。花器は、高さ約40センチ、幅約35センチの青い陶器。大きく広がった生け口には、直径2センチほどの花弁が ажさいのようにまとまる白のおいらん草、八重咲きの橙の姫向日葵が密集する。そして、その茂みの中からすらりと放射状に伸びるのは、6つの細長い花弁が反り返った赤のグロリオサだ。

夏から秋にかけて盛りを迎える花材ばかりだ。半球状に盛り上がる姫向日葵に太陽を、グロリ



高田さんの作品(7月21日、筑波大学サテライトオフィスで) = 同部提供

オースに揺らめく炎を感じる。溢れ出る夏の熱気。そして、その熱を和らげるかのように咲く白の花と、青の花器。湖畔の水辺を連想させた。剣山を

隠すために大ぶりの葉が効果的に使われ、花がまるくそこに自生しているように見える。

「瓶に花をさす事いにしへよりあるとほきく侍い出した。

花瓶に花をさす事は昔からよく有る事は聞いていましたが、それは美しい花のみ鑑賞し草木などの趣を理解せずただ差して生えているだけだ。『花道古書集成』昭和45年(複製版)。室町時代後期、池坊華道を成立させた専心は、「自然の調和」を表現する重要性を説いてきた。

比較的に、放射状に伸びるグロリオサを間隔を

た。作品に感じたのは、まさに調和した自然の美しさだ。

作品の表現力にも、目を見張るものがあった。池坊華道の生け方には大きく分けて3種類の様式がある。使う花材の数や種類、生ける時の配置や構成が決まっている「立花」と「生花」、形式がなく自由に表現できる「自由花」だ。この作品は「自由花」であり、自由だからこそ、いかにその花の魅力を最大限に引き出すかが、作者の表現力にかかっている。

比較的に、放射状に伸びるグロリオサを間隔を



『歴史としての学問』中山茂 著

本書は、東洋と西洋の学問史にパラダイム論を応用して、制度の側面から体系的にまとめたものです。著者の中山茂は、パラダイム論の提唱者であるクレーンの『科学革命の構造』(みすず書房)を翻訳しています。現在は、書名を『パラダイムと科学革命の歴史』(講談社)と変えて文庫化されています(元の書名の方が好きです)。

制度の側面からみた学問史

制度の側面からみた学問史とは、紙や印刷術の発明と伝播、大学や学会などの学術組織の成立と発展、紙・印刷術と学会が結びついた学術雑誌の誕生、そして、19世紀における科学者の専門職業化などを中心に扱っていることを指しています。

緑川 信之 教授 (図書館情報学)



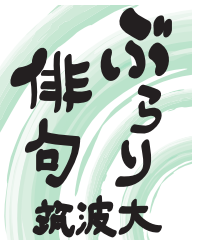
図情メ系・教授。慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了。博士(図書館情報学)。図書館情報学大学院図書館情報学部助手、同教授などを経て、2011年より現職。

私が図書館情報学の研究を始めた頃は、学術情報の利用を主な主題としていたのですが、そんなときに本書に出会って大きな感銘を受けました。内容が私の研究

の『テキストの擁護者たち』近代ヨーロッパにおける人文学の誕生(勉草書房)やブレアの『情報爆発：初期近代ヨーロッパの情報管理術』(中央公論社)などが翻訳されています。本書はインテリクチュアル・ヒストリー研究の先駆とも言えるでしょう。



土浦学園線で遠子内早紀撮影



「まつりつくば」・はためけるものゝ音して秋祭
・諸鳥の殊に雀よ秋祭
・ゆく水に藻の霞みをり秋祭

つくば市民になって5年目の今年、初めてまつりつくばに行った。夏休みはまだまだ中盤だが、立秋は過ぎていたので、俳人的には「秋祭」ということになる。ポストモダン建築のど真ん中で催されるまつりつくばに、「秋祭」という古色蒼然とした響きはちょっと似合わないが、暮れ方になっても衰えない人出の華やかさはやはり祭らしい。大学施設や研究所から離れたところで、続く、昔ながらの祭の魅力も捨てがたいが。(文・俳句 堀下翔II文芸・言語専攻1年)

就職活動の実態を探る



大学生の就職活動(就活)の枠組みが不透明になりつつある。報道各社によると、日本経済団体連合会(経団連・東京都千代田区)の中西宏明会長は9月3日、大学生の就活時期などを定める「採用選考に関する指針」を再来年にも廃止したい意向を表明。一方で、政府は9月下旬、自ら主導で再来年の就活時期を現行通り進める方針を明らかにした。だが、2022年以降の日程は未定のまま。経団連主導の「就活体制」が崩壊する可能性がある中、筑波大学生の就活の実態を探った。

(秋田耕平、國井俊介、森賀遼太、社会学類、佐藤巧基、物理学類)

21年春入社から指針廃止へ

就活制度の変遷

経団連は1997年、「新入社員採用選考に関する指針」を策定。大卒予定者の「正式な内定日は卒業・修了年度の10月1日以降とする」とした。また2013年には別の指針を出し、就職説明会を3月1日、選考活動を8月1日開始と定めた。15年には選考活動の開始日を6月1日と2カ月前倒した。だが、同指針には拘束力

はなく、守らない企業は多い。経団連が15年に会員企業1331社に実施した調査で回答した790社のうち、87.5%が「企業全体としての指針のスケジュールは遵守されていない」と回答した。今回、本紙の取材に応じた経団連の担当者も「指針を守って採用活動をしてほしいが、強制はできない」と話した。

また、同指針ではインターンシップ(インターン)は企業への社会貢献活動であり、採用活動ではない、と

筑波大の取り組み

筑波大の就職課では、進路の相談に加え、エントリーシート(E.S.)の添削や面接の練習、OB・OGなどの紹介、企業案内や就活情報誌の提供などを行っている。昨年度、学生が同課を訪れた個別相談件数は3000件以上。そのうち3割以上をE.S.の添削と面接の練習が占める。また、同課では就活に協力するOB・OG約4000人の名簿などが閲覧できる。

就活支援団体

■エンカレッジ筑波

京都大学の就活支援を行う学生団体「en-cou」は、一般的な就業体験とは異なる「ragae」の筑波大支部で、2016年創設。現在、企業から内定を得ている24人で運営する。

年間3回行う「学内インターンウィーク」は、一般企業との面接やグループディスカッション(集団面接)の練習が1日中行われる。これを通じて、自分自身と向き合い、参加者自身の強みを生かす力を磨くことができるという。

TAKE@WAY

2010年に創設。年間の振り返りや、自己分析や業界研究など、テーマごとに開かれる「選考対策セミナー」▽企業の社員による学内での講演▽E.S.の添削▽面接や集団討論の指導……などを行う。



エンカレッジ筑波の阿部さん(9月4日、中央図書館で)＝國井俊介撮影

学生による就活支援の手

昨年度の同団体の利用者は約400人。同団体の阿部寿季さん(社会学4年)は「(団体の)認知度はまだ低いが、最終的には筑波大生全員が参加してもいいようにしたい」と語った。

「逆求人」では学生個人

逆求人イベントに参加し

募集する方法。

座談会

■就活遍歴

——皆さんの就活状況を教えてください。

上田 今年の3月中旬から活動を始め、化粧品業界を中心に20社ほど応募した。5月と6月に2社から研究職の内定を得た。

原田 昨年夏、学内の就職セミナーから始めた。農業や食品系の企業に興味があったため、秋に業界研究を行い、冬にはインターンに参加した。実際に24社に応募して5社から内定を得た。早い企業では3

| 名前 | 就活を始めた時期 | 何社受けたか | 何社受かったか | 内々定先 |
|----|----------|--------|---------|----------|
| 細矢 | 昨年夏 | 16社 | 4社 | 通信機器メーカー |
| 木嶋 | 昨年9月 | 41社 | 5社 | 精密化学メーカー |
| 岩本 | 昨年11月 | 25社 | 2社 | 総合商社 |
| 上田 | 3月中旬 | 20社 | 2社 | 化粧品会社 |
| 原田 | 昨年夏 | 24社 | 5社 | 食品会社 |
| 佐藤 | 昨年7月 | 20社 | 3社 | 製薬会社 |

月には内々定を得ていたが、7月に内々定を得た食品会社の研究職に進むことにした。

木嶋 留学から戻ってきた昨年9月から企業について調べ始めた。海外で仕事したいと思い、外資系の

志望業界変わる場合も

企業や国際展開する企業を中心に41社に応募した。外資系企業は12月から選考があった。3月から内々定が出始め、計5社から内々定を得た。そのうち精密化学メーカーの事務職に進むことにした。

3月に入り、うまく立ち行かないと思い、別の業界も視野に入れるようにした。その結果、16社に応募し、7月上旬までに4社から内々定を得て、通信機器メーカーの事務職に進むことにした。

——就活に関する情報はどこで入手しましたか。

上田 企業の「中期経営計画」をホームページで探っており、情報収集に役立った。

木嶋 OB訪問をして、社風や社内の雰囲気などネットでは分からない情報が得た。

岩本 有名な「リクナビ」「マイナビ」などの就活サイトはあまり使わず、「みんなの就活日記」などの学生の動向が分かる掲示板で実際の体験談などを参考にした。

——就活での失敗談は何かありましたか。

原田 緊張もあったが、集団面接で意見を聞かれた

局その日は参加できず、後日参加になってしまった。

OB・OG訪問で情報収集

佐藤 何度も訪れていた企業だったため、説明会の場所をしっかりと確認しなかった。現地で開催場所が違っていたが、結局その日は参加できず、後日参加になってしまった。



自身の就活状況を話す上田さん(左)と原田さん



就活で苦労した経験を語る佐藤さん



逆求人イベントを開催する TAKE@WAY 代表の岩本さん(9月3日、5C棟で)＝森賀遼太撮影

たい筑波大生は、同団体が個別面談で選考。イベントまでの期間、スタッフが自己アピールの準備、指導などを個別に行う。

昨年度の同団体の利用者は約1200人。団体の代表の岩本怜士さん(体専4年)は「筑波大の学生数を考えればこの数字は多いとは言えないが、その分一人に密接に寄り添うことで、きめ細かい指導ができることが団体の強み」と話した。

▽内定と内々定▽内定は就活で学生と企業との間に、労働契約が成立した状態。一方、内々定は内定を得ることを約束された状態。

▽逆求人Ⅱ企業が学生向けに募集する従来の求人方法に対して、学生が自己アピールを公開して企業を募集する方法。

座談会「30万円かかった」



座談会に参加した木嶋さん(左)と岩本さん

■学生生活への影響

——学業や研究、課外活動と就活をどのように両立しましたか。

上田 研究との両立が大変で、日中に東京へ就活に出かけ、夜に実験をするという生活が続いた。

細矢 4年次春学期の授業数は少なかったが、それでも面接や説明会などで日程が重なり、授業には全然出席できなかった。

インターン 実質選考に

■就活の実態

——就活の費用は。上田 交通費やスーツのクリーニング代など計約30万円かかった。特に地方へ飛行機で行った際は往復5万円から、負担は大きかった。

細矢 スーツは安物だったが、靴は3万円のものを買った。特になかなか見つからなかった。女性にはヒールのある靴を履くため靴選びは重要だと感じた。

岩本 つくばエクスプレスの運賃が高く、都内在住の学生に比べ交通費は数倍だったと思う。

細矢 一般企業の夏季インターンに参加した時、早

期選考の案内があった。また「セミナー」と称したイベントで、グループワークでの様子などを人事担当者がチェックしていた。

木嶋 インターンは早期選考や内定につながると思っている。インターン会場の奥で学生を観察しながらパソコンを操作する人事担当者がいたが、学生を評価していたのではない。

上田 企業によるが、インターンの大半は何かしら本選考に関係すると感じた。だが、それに参加しないと受からないとか、逆に参加すれば絶対受かるわけでもない。自分の予定や志望度と考慮して応募するかどうかを決めるべきだ。

——就活の大西会長が就活ルールを廃止する考えを明らかにしました。岩本 日本では将来性を考慮する採用形態だが、欧米は資格や能力を重視する採用形態となっている。指

針の廃止で海外同様、1年程度の長期インターンで能力を見定め、採用といった形が広まるのではないかと。また今後は学群1年の時から就職活動が始まるのでは

視点

今回の取材で、就活では早い時期から綿密な準備を行うことが重要だと感じた。▽自己分析▽志望業界選定▽面接や集団討論の練習▽ESの作成や添削・指導の依頼……。準備することはいくらでもあるようだ。

座談会での話によると、インターンや説明会、セミナーへの参加も重要で、そこから早期選考や内定につながることも多い。

座談会でも指摘されたように、今後、大学入学後すぐに就活に入る可能性がある。就活が学業や研究の妨げとなれば、大学の存在意義も問われてしまう。

就活が学生の負担に

今後、学生と企業の双方に配慮した新しい就活の形を考えていくべきだ。就活が学業の大きな妨げになる事態だけは避けなければならない。(森賀遼太)

細矢 実質的には、4月5月から採用面接があり、針があることでスケジュールの目安ができた。

——経団連は「インターンと採用活動は無関係」としていますが、実際はどのような感じでしたか。

細矢 インターンに参加した時、早

期選考の案内があった。また「セミナー」と称したイベントで、グループワークでの様子などを人事担当者がいたが、学生を評価していたのではない。

上田 企業によるが、インターンの大半は何かしら本選考に関係すると感じた。だが、それに参加しないと受からないとか、逆に参加すれば絶対受かるわけでもない。自分の予定や志望度と考慮して応募するかどうかを決めるべきだ。

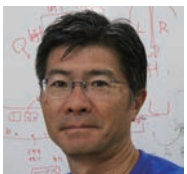
座談会での話によると、インターンや説明会、セミナーへの参加も重要で、そこから早期選考や内定につながることも多い。

座談会でも指摘されたように、今後、大学入学後すぐに就活に入る可能性がある。就活が学業や研究の妨げとなれば、大学の存在意義も問われてしまう。

座談会では、同指針があることでスケジュールの目安が見られた。指針が廃止されれば、この時期の目安を失い、迷走する学生も出かねない。

座談会では、同指針があることでスケジュールの目安が見られた。指針が廃止されれば、この時期の目安を失い、迷走する学生も出かねない。

Hello!先端研究



和田洋教授

生物の形態は、サルやウシ、人間など哺乳類だけでも多様だが、これまでこれら形態の違いは発生学的な違い、全動物が共通に持つとされる「ホメオボックス遺伝子」の働きを受け、大まかに決まるとされてきた。だが、和田洋教授

と共通のホメオボックス遺伝子を持つ、という前提にたっていた。だが、ある時、アコヤガイにしかないホメオボックス遺伝子を発見した。

アコヤガイの遺伝子を研究してきた和田教授は、当初はアコヤガイも人間

の発生過程でどう動くかを確かめるために、冠輪動物を用いた実験を開始。遺伝子を取り出し、染色し、この遺伝子の働き方を観察した。その結果「SPLE」という遺伝子群が冠輪動物の初期

でも、何らかの理由で別の形に変化する例もあると語る。

和田教授は、今後も冠輪動物の発生研究を進めていく。遺伝や生物の発生メカニズムが完全に解き明かされる日は、すぐそこまで来ているのかもしれない。(豊岡恵二 比較化学科2年)

形態は生物の形状や体の構造のこと。発生は生物学で、受精が成体へと育つまでの過程。

冠輪動物は貝などの軟体動物など、発生時に特有の細胞分裂を行う動物群。

アコヤガイから新遺伝子

発生の仕組みの定説を覆す

遺伝子は説明されている部分が多く、冠輪動物の発生全貌はまだ明らかでない。「発生の方針は、最終的に同じ形になる生物もあれば、同じ発生の仕方をして

る生物もあれば、同じ発生の仕方をして

る生物もあれば、同じ発生の仕方をして

る生物もあれば、同じ発生の仕方をして

る生物もあれば、同じ発生の仕方をして

る生物もあれば、同じ発生の仕方をして

る生物もあれば、同じ発生の仕方をして

る生物もあれば、同じ発生の仕方をして

る生物もあれば、同じ発生の仕方をして

手紙



イラストレーター TOA さん

ビールが大好きなイラストレーターTOA(本名・久保紗織)です。筑波大学芸術専門学群ビジュアルデザイン専攻を2011年に卒業しました。12年からビールをテーマにイラストを描き始め、今年の6月に漫画でクラフトビールの味の特徴や歴史を紹介する書籍「恋するクラフトビール」をKADOKAWA

より出版しました。小さい頃から絵を描くことが大好きで迷わず芸専を受験したのですが、与えられた課題をこなすことがつまらなく感じて創作意欲を失い、作品と呼べるものをほとんど作りませんでした。卒業し特にやりたいこともないまま入社した会社はブラック企業でした。

そこでは、社長が本名とは関係のない名前を社員に付け(ちなみに私はコックルでした)、社員はその名前を呼ばなければならなかった。今となっては笑い話ですが、他にも理不尽な所が多く、半年で自らの髪の毛をカミソリで衝動的に剃るまでに精神を病んでしまいました。

しかし、その衝撃的なできごとがきっかけで本気で自分のやりたいことは何なのかを考えるようになった。

力を伝えられるのが一番の課題でした。例えば、ビールの味を表現する時「クローブのような味」や「本ビール手帳」を味わう本ビール手帳が、出版のお話をいただくきっかけとなりました。

私の好きな言葉は「恋するクラフトビール」を出版する機会に恵まれました。

ビールの魅力は、年齢、職業の区別なく人を繋ぐ所です。また、味わい、デザインの多様性はほかのお酒に真似できないものです。私はこれからは、そんなビールの魅力を知っていただけたら、ビールと人をつなぐ「扉」のような作品を作っていきたいと思っています。(平成23年度芸術専門学群卒)

ビールの魅力を漫画で伝える



TOAさんの著作「恋するクラフトビール」

「恋するクラフトビール」は、香りと書かれても味はわからない人はいない。行動はそれ自体で解き明かす。もっと感覚的にビールの味を伝える方法はないかと考え、味をイラストレーターとして活

かして、香りと書かれても味はわからない人はいない。行動はそれ自体で解き明かす。もっと感覚的にビールの味を伝える方法はないかと考え、味をイラストレーターとして活

アジア大会 筑波大生の活躍光る



アジア王者となり、東京五輪に向け弾みをつけた梶原（8月29日、ジャカルタで）＝本人提供

自転車

女子オムニウムは8月29日に行われ、梶原悠未（体3年）が金メダルを獲得した。

インドネシア・ジャカルタ、パレンバンで8月18日から9月2日にアジア大会が行われた。筑波大からは、自転車女子オムニウムで梶原悠未（体3年）が金メダルを獲得した。また、陸上男子走り高跳びの戸邊直人（コーチ3年）、レスリング男子フリースタイル57kg級の高橋侑希（体育2年）がそれぞれ銅メダルを獲得した。その他にも多くの選手が入賞するなど、筑波大生の活躍が目立った。

梶原オムニウムで「金」



試合終盤、大外刈で技ありを奪う関根（上）（9月9日、決勝・清水戦で）

全日本ジュニア体重別

男子100kg級 関根が優勝

柔道

【埼玉県立武道館（埼玉県上尾市）で池田花於里（比較文化学類2年）写真も。12面に関連写真】全日本ジュニア体重別選手権が9月8、9日に行われた。男子100kg級で関根聖隆（体専1年）が優勝し、10月の世界ジュニア選手権への出場を決めた。また、同日の男子100kg級では、昨年準優勝の関根が出場。磐石の戦いで初戦、3回戦を突破した後、準決勝では神垣和也（明治大）と対戦した。序盤から激しい攻防を繰り広げたが、最後

大外刈で技あり奪う

は関根が大外刈で一本を奪い、決勝へ駒を進めた。決勝の相手は清水雅義（国士舘大）。激しい攻防の中、中盤、関根が一度、清水に2度の指導を与えられた。残り1分を切ると、関根が一本背負投から大外刈を仕掛けて技ありを奪い、優勢勝ちで優勝に輝いた。関根は「うれしいというよりほっとした。今まで全日本大会の決勝に4度進出したが全部2位で終わっていたシルバークレター（のち）を払拭したかった」と話した。また、東京五輪については「今年活躍しない」と意気込んだ。

女子5位でシード権

水泳競技

インカレ

【横浜国際プール（横浜市中区）で明石尚之（体専専門学群3年）大学日本一を決める日本学生選手権（インカレ）が9月7～9日に行われた。女子は、岡野圭穂（体専4年）が50m自由形を制するなど健闘し、3年連続の総合5位で来年のシード権を獲得。一方、男子は11位に終わり、シード権を逃した。7日の女子50m自由形で、前回優勝の岡野が貫禄

の泳ぎを見せ、25秒32で2連覇を達成。住岡叶夢（同2年）は25秒85の4位で惜しくも表彰台を逃した。8日の女子100mバタフライでは、平田菜穂（同3年）が59秒14で3位に入った。3日目の200m平泳ぎでは赤石咲乃（同2年）が前半から積極的な泳ぎを見せ、2分28秒24で4位と躍進した。また、7日の女子400mフリーリレーでは1位の日本大と0・47秒差に迫る3分44秒98で2位を獲得する。2日目の女子400mメドレーリレーでも3位

女子単複優勝

テニス

全日本学生選手権（インカレ）が8月9～21日に岐阜メモリアルセンター（岐阜市）で行われ、牛島里咲（体専4年）が女子シングルス優勝、牛島・森崎可南子（同4年）が女子ダブルス優勝を飾った。牛島は単複2冠、森崎はダブルス2連覇を果たした。（木村誠）

専修大に完勝

サッカー

関東大学リーグ戦

【岩手県盛岡市】で飯田健介（社会学類2年、写真も。12面に関連写真）4月に始まった関東大学リーグ戦が2カ月の中断期間を経て9月に再開した。筑波大は9月16日に専修大と対戦し、2-0で勝利。全日本大学選手権（インカレ）出場圏の6位以内に向けて勝ち点を積み重ねた。筑波大は6勝3分4敗で4位につけている（9月23日現在）。序盤から互いにゴールに迫り、激しい攻防が続いた。前半33分、三苫薫（体専3年）のパスを受けた高嶺朋樹（同3年）が抜け出してシュートを決め、筑波大が



2点目となるPKを決めた小笠原（左）（9月16日、専修大戦で）

大接戦制し栄冠

オムニウムはスクラッチ・テンポレース・エリミネーション・ポイントレースの4種目のトラックレースの総得点で競い合う。1種目のスクラッチは7・5kmを走り、その最終順位で競う。中盤、ウズベキスタンの選手が先頭集団から抜け出し、梶原は先頭を逃がす。更に、終盤では後ろを走るファン・ティン・イン（台湾）の追い上げに屈し3位でゴール。だが、「オムニウムでは各種目で上位に入ることが重要なので悪くないスタートを切れたと振り返る。2種目のテンポレースは、周ごとに先頭で通過した選手が1点を獲得し、全30周での総得点を競う。序盤からファンが先行し得点を稼がれたが、中盤から梶原が集団の前に出て残り13周を先頭で通過。1位でこ

筑波大生 その他の主な記録

◆サッカー

【男子】▽三苫薫（体専3年）Ⅱ銀メダル

◆自転車

【女子】▽トラック チームパシユート 4000メダル
【男子】▽小澤由輝（体専3年）Ⅱ5位
【女子】▽52kg級 深見利佐子（世界遺産2年）Ⅱ銅メダル

◆陸上

▽混合4×400mリレー山下潤（体専3年）Ⅱ5位
【男子】▽玉木祥護（体専4年）Ⅱ7位

先制した。その後はチャンスで得点を決めきれず、1-0で敗北した。後半は専修大に攻め込まれる場面が増えたが、キーパーの阿部航斗（同3年）が好セーブを連発。相手にゴールを許さなかった。後半39分には、三苫が左サイドを突破し、ペナルティエリア内に侵入した際にファールを受けPKを獲得した。これを主将の小笠原佳祐（同4年）が決め、そのまま試合終了。2-0で筑波大が完封勝利した。小井土正亮監督（体育系・助教）は「久しぶりの公式戦だったが90分間（集中を）切らずに戦えた。阿部を中心に守備陣が失点を0に抑えられたのが収穫だ。インカレ制覇を目指す中で筑波大らしさが出た試合になった」と語った。

広告欄

日本インカレ 女子優勝・男子3位



陸上
大学日本一を決める日本インカレが9月6―9日に等々力陸上競技場(川崎市中原区)で行われた。

陸上競技部が関東学生対校選手権(関東インカレ)に引き続き、近年まれにみる好成績を残している。日本学生対校選手権(日本インカレ)では、女子が4年ぶりの総合優勝を決め、男子は総合3位となった。男子2000以下で山下潤(体専3年)、女子三段跳びで剣持クリア(同3年)、女子ハンマー投で江原宇宙(同4年)がそれぞれ悲願の初優勝を達成。また、U20世界陸上では、女子やり投げで桑添友花(同2年)が初の国際大会ながら銀メダルを獲得した。(森賀遼太II社会学類2年)

女子三段跳びで優勝を果たした剣持 (9月8日、等々力陸上競技場で) = 陸上競技部提供

星子 3位に終わる

全日本学生選手権



相手と間合いをとる星子(右) (7月8日、準決勝で) = 後藤佳怜撮影

剣道

【日本武道館(東京都千代田区)で西村大祐II人文学類1年、山本颯II比較文学類3年、後藤佳怜II社会学類1年、個人戦で争う全日本学生選手権が7月8日に行われ、星子啓太(体専2年)が3位入賞を果たした。また、全日本女子学生選手権が7月7日に行われ、竹中美帆(同3年)がベスト8に入った。

優勝候補筆頭として臨んだ星子は初戦をメンとコテの2本勝ちで突破した。5回戦は延長戦までもつれ込んだが、最後にドウを決め勝利。続く準決勝では内橋響希(鹿屋体育大)と対戦した。星子は中盤に相手の飛び出しを見極めてメンを決め、4強に進出した。準決勝では今大会で優勝した矢野貴之(国士館大)と対戦。序盤から相手にタイミングよく攻められる展開が続いた。そして中盤に互いに前に飛びメンを放ったが、それが相手の一本となり敗戦。昨年同様3位に終わった。

星子は「気持ち切り替えて、この大会で得たものを糧に成長したい」と話した。香田郡秀部長(体育系・教授)は「プレッシャーの中で勝ち続けるのは難しい。今回の結果が気持ちをリセットする良い機会となり、価値ある一敗だった」と話した。

剣持ら3人が初優勝

女子三段跳びでは昨年、1センチ差で優勝を逃していた剣持が初優勝。今年は5回目の試技で13.47mを記録し、それまで12.95mで1位だった中村紗華(順天堂大)を逆転した。最後の試技では13.12mと更に記録を伸ばすなど10種目で入賞。昨年の総合7位から躍進し、総合3位となった。

女子ハンマー投げでは江原と関口清乃(同3年)が激しい優勝争いを繰り広げた。関口は3回目の試技で56.19mの好記録をマークし、それを江原が追う展開に。そして、江原は4回目の試技で56.51mを記録し、関口の記録を抜いて初優勝を果たした。この種目で筑波大は1位、2位を独占した。女子は14種目で入賞し、総合1位。昨年王者の日本体育大に大差をつけ4年ぶりの日本一に輝いた。

世界選手権男子団体 星子 優勝に貢献

世界選手権が9月14―16日に韓国・仁川で開催された。筑波大の星子啓太(体専2年)が男子団体戦に日本代表として出場し、日本の4連覇に貢献した。

「絶対王者」筑波大を率いる

大阪府生まれ。兄の影響で小学2年で競技を始めた。1人で日本が勝利した。星子の勝利は日本の優勝に大きく貢献した。(後藤佳怜)

スポーツ顔

昨年の全日本大学選手権(インカレ)で女子団体4連覇を果たした筑波大バドミントン部。決勝では第1シングルスを抑え、勝利に貢献した。今年からは主将を務め、「絶対王者」として名を馳せるチームを引っ張る。

シングルスでの強みは分析力。球を読み、相手の弱点を突くことで試合を有利に進ぶ。ダブルスでは相方に応じてフレイズスタイルを切り替える柔軟性が武器。香山未帆(体専2年)とのダブルスでは、パワーのある香山の球を最大限生かす流れを前衛で作り出す。「どんな相手でも適応すること心がけている」。

大阪府生まれ。兄の影響で小学2年で競技を始めた。1人で日本が勝利した。星子の勝利は日本の優勝に大きく貢献した。(後藤佳怜)

インカレ5連覇狙うバドミントン部女子主将 安田美空(体専3年)



インカレ5連覇狙うバドミントン部女子主将 安田美空(体専3年)

大OBの顧問から勧められたことが決め手。1年目からレギュラーに抜擢されたが、「期待に応えなければならぬ」と常に大きな重圧を感じ、ストレスを溜めた。そして10月のインカレ直前、体

ライに定着できなかった。練習も厳しく、高校内部進学の際には競技を続けるか悩んだ。だが、精神面の成長を重視する顧問の指導で競技続行を決心。同時にバドミントンは仲間との信頼関係が

文部科学大臣賞受賞

文部科学大臣賞を受賞したダンス部(8月9日、神戸文化ホールで) = 同部提供

ダンス
全国高校・大学フェスティバル
全国の高校生・大学生を対象にした創作ダンス競技会の全日本高校・大学ダンスフェスティバルが8月7―9日に神戸文化ホール(神戸市中央区)で開催された。筑波大ダンス部は作品「巡礼」を発表し、最も

完成度の高い作品に贈られる文部科学大臣賞を受賞した。筑波大の同賞の受賞は2年ぶりの13回目。「巡礼」は部員30人による作品。生命の誕生をテーマに、細胞が1人の胎児になる過程を、人が巡礼して新しい自分に「生まれ変わる」様子に例え、絶え間ないダンスで表現した。主将の齋藤瀬奈(体専3年)は「文部科学大臣賞は部員で最初に掲げた目標、受賞できてうれしい」と話した。(飯田健介)

